県内JAのニュースを紹介します

フラッシュ

ＪＡ青森

健苗育成と適正管理の徹底を　水稲講習会（２／20）

ＪＡ青森あすなろ営農センターは、北部地区農村環境改善センターで、あすなろ・後潟地区2022年度水稲農事講習会を開き、生産者や関係者ら約50人が参加した。参加者らは、22年産の振り返りや23年産に向けての注意点を確認したほか、今後の需給見通しなどについて講師から説明を受けた。

ＪＡつがるにしきた

冬限定の農家レストラン（２／８）

鶴田町の農家有志で結成される「華の会」は、同町道の駅つるた･鶴の里あるじゃのイートインコーナー「あるあん」で、町内産食材をふんだんに使った「鶴田御膳」を数量限定で提供した。

メニューは、会メンバーが作った米「青天の霹靂」をはじめ、もやしハンバーグやカボチャの煮物、豆乳茶わん蒸し、ニシンとネギの酢味噌和えなど全12種類。

ＪＡごしょつがる

おもしろ野菜　直売所向け講習会（２／８）

ＪＡごしょつがるは、直売所の活性化と出荷者の今後の取り組みを支援するため「直売等に向けた野菜栽培講習会」をＪＡ本店で開いた。農産物直売所「まるっと新鮮館」などへの出荷者が13人出席した。

見た目にインパクトがある赤色のスイートコーンや、味のバランスが抜群のミニトマトなどの説明に、出荷者らは熱心に耳を傾けた。

ＪＡつがる弘前

高品質なりんご生産を　３年ぶりの整枝剪定講習会（２／12）

ＪＡつがる弘前りんご振興協議会は、河東地区りんご施設および施設向かいの園地で整枝剪定講習会を開いた。

新型コロナウイルスの影響で、３年ぶりの開催となり、リンゴ生産者など約150人が参加した。

園地の実演では、各地域で剪定の講師を務める３人が、来年、再来年の生産を見据えた高品質なリンゴを生産するためのポイントを解説しながら実演した。

ＪＡ相馬村

イオン九州でりんご消費宣伝ＰＲ（１／28・29）

ＪＡ相馬村管内りんご生産者５人が、イオンモール香椎浜店・イオン福岡店・イオン筑紫野店でりんごの消費宣伝ＰＲを実施した。県外での消費宣伝活動は３年ぶり。店頭に立ち消費者に飛馬りんごをＰＲした生産者は「自分たちが作ったりんごが売れていくのを見て、今後の励みになった」と楽しそうに話し、今後のりんご生産への意欲をみせた。

ＪＡゆうき青森

契約かぼちゃ出荷に向けて説明会開催（２／13）

ＪＡゆうき青森は、ＪＡ本所で契約かぼちゃの出荷に向けた説明会を開催し、生産者12人が参加した。契約かぼちゃは、令和２年産から生産者の高齢化や後継者不足に伴う労働力不足の軽減のため、スチールコンテナでの出荷を行っている。

説明会では、出荷の時期や収穫基準、品種の特性や栽培管理方法などについて講師を招き、講習会を行った。

ＪＡ津軽みらい

発酵効果で健康促進（２／７）

ＪＡ津軽みらいは、ＪＡ本店で女性営農生活講座・２月講座を開き、発酵料理教室を開いた。14人が参加し、発酵食品を組み合わせた調理方法を学んだ。

講師が麹の効果や塩麹、醤油麹、甘麹の作り方を説明し、参加者は「甘麹卵焼き」、「季節のフルーツの甘麹掛け」などを作り、試食した。

ＪＡ十和田おいらせ

ナガイモ販売額15億3000万円　水害対策しっかりと（２／14）

ＪＡ十和田おいらせ野菜振興会ながいも専門部会は、ＪＡ本店で2022年度実績検討会を開いた。21年産は、肥大期の天候不順や病害虫などによる奇形が散見され、出荷数量は7142㌧、販売金額は前年度比94％の15億3000万円にとどまった。参加した管内の生産農家ら110人は近年、水害による被害が多発していることから、排水対策等を徹底していくことを確認した。

ＪＡおいらせ

営農座談会で高品質生産への栽培ポイントを呼びかける（２／16・17）

ＪＡおいらせ指導課は、六戸町内の〆23ヶ所で、営農座談会を開いた。安全安心な野菜の生産体制で農家所得向上につなげようと農家組合員へ各品目の栽培指導を行った。ナガイモについては令和４年産の作柄やその要因について説明し、特に８月の大雨被害を受けて圃場の排水対策や種いもに切いもを使用する際の注意点を紹介した。

ＪＡ八戸

早生えんぶり祭りで地域ふれあい活動（２／５）

ＪＡ八戸階上支店は、階上町のわっせ交流センターで開催した早生えんぶり祭りにおいて、地域ふれあい活動として、農産物と女性部手造り玄米みその詰め合わせを先着100人にプレゼントした。

会場では、早生えんぶり祭りも３年ぶりに開催され、町内３組のえんぶり組による舞の披露やよもぎ餅の振る舞いなどが行われ、会場を盛り上げた。

令和４年度協同組合４団体合同研修会

県内の協同組合４団体で構成する「協同組合間提携青森県実行委員会」は２月22日、県農協会館とウェブ会議システムを活用し、合同研修会を開いた。

研修会には、ＪＡ青森中央会のほか県生協連など４団体と、県内５ＪＡ・連合会から約80人の職員が参加した。

ＪＡ全中農政部農政課の吉澤龍一郎調査役が講師を務め、食料・農業・農村をとりまく環境の変化について説明した。

吉澤調査役は、コロナ禍そしてロシアによるウクライナ侵攻により、日本の「食」をとりまくリスクは今後とも増大する恐れがあるため、不測時ではなく、平時からの食料安全保障の強化が必要であると強調。あらゆる環境の変化に対応していくためには、食料・農業・農村基本法における食料安全保障の位置づけは日本国内で考えるべき喫緊の課題であると説明した。

ＪＡ青森中央会の小山主税常務は「同研修会を通して、国内を取り巻く環境の変化を理解するきっかけとなり、その後の行動変容につながれば」と願いを述べた。

同研修会は、協同組合の理念や使命、社会的役割などについて相互理解を深めることを目的に実施しており、研修会を通じて、協同組合間での連携方法を模索していく。

▲出席者から質問を受ける吉澤調査役（右）

あおもり食育推進大会2023

ＪＡ青森中央会は２月27日、東奥日報新町ビルで開かれた県主催の「あおもり食育推進大会2023」にブースを出展した。

「ＪＡグループによる食と農の取組」と題して、県内小学校で実施している「バケツ稲づくり」やＪＡグループの独自のキーメッセージである『国消国産』をＰＲした。出展団体は（株）明治やカゴメ（株）などの大手食品メーカーから県内大学・短期大学など15団体が参加した。

同大会では、基調講演や活動事例の講演も設け、青森大学客員教授の竹林正樹氏は「自然に健康になれる食習慣づくり～ナッジを活用した食育推進～」について講演し、会場の興味・関心を引いた。

活動事例では弘前市食生活改善推進員会の斎藤明子会長が「働き盛り世代を対象とした食育講座」、あおもり野菜ソムリエの会の中村陵子会長が「親子を対象とした食育紙芝居などによる食育活動」をそれぞれ紹介した。

▲来場者にＪＡグループ青森の事業を紹介する中央会職員（左）

行事（３／10～４／10）

３月

10日	監事監査研修会（ホテル青森）
13日	くらしの活動研修会（県農協会館）
14日	青年部　県下ＪＡ青年部長・事務局合同会議（県農協会館））
14日	青年部　現役員と令和５年度役員候補との意見交換会（県農協会館）
15日	県女性協　部長・支部長合同会議＆研修会（県農協会館）
16日	令和４年度第２回営農ＩＣＴ情報システム作業部会（県農協会館）
16日	食料・農業・農村基本法の見直しによるＪＡグループの組織討議内容の説明会（ホテル青森）
16日	県ＪＡ協議会　ＪＡ常勤役員情報交換会（ホテル青森）
20日	ＪＡ教材本贈呈式（県教育庁）
27～28日	新採用職員研修（ＷＥＢ）（県農協会館）
28日	県農協農政対策本部委員会（県農協会館）
28日	臨時総会・臨時理事会（県農協会館）

４月

７日	県農協青年部通常総会

「ＪＡバンク優遇プログラム」の得点対象取引に「通帳レス口座」が追加されます!!

ＪＡバンク青森では、2023年４月25日（火）より、「ＪＡバンク優遇プログラム（＊1）」の得点対象取引に「通帳レス口座」を追加する。

ＪＡバンク優遇プログラムとは、ＪＡとの取引内容をポイントに換算し、その合計ポイントによって、振込手数料や入出金手数料を優遇するお得なサービス。個人のお客様ならどなたでもご利用でき、申し込みも不要。毎月末時点の合計ポイントで３段階のステージが決定し、翌月25日～翌々月24日までの１ヵ月の間に各ステージに応じた優遇が受けられる。自分のステージや優遇回数は、パソコン、スマートフォンで確認できる。

今回新たに追加される通帳レス口座は、通帳等の発行に代えて、ＪＡバンクアプリで貯金口座の残高･入出金明細等をご確認いただけるサービス。通帳記帳の手間も無く、最大10年間分の入出金明細を閲覧できるほか､通帳紛失の心配もなくなる。通帳レス口座のご利用は、ＪＡバンクアプリ上での切替か、ＪＡ窓口での貯金口座開設時に通帳レスを選択すればできる。

取引内容に応じたポイントと各ステージの優遇内容・優遇回数は次のとおり。

お取引内容ごとのポイント
下記の合計点によりお客様のステージが決定します

得点対象取引	取引内容	ポイント
給与振込	判定月またはその前月に給与振込として５万円以上の振込をお受け取りいただいていること	3
年金自動受取	一定期間内※に公的年金（農林年金・農業者年金・新国民年金・厚生年金・共済年金等）として振込をお受け取りいただいていること ※農林年金・新国民年金・国民年金・厚生年金・共済年金・船員年金＝２ヵ月間、農業者年金＝３ヵ月間、その他年金＝12ヵ月間	3
正組合員資格 正組合員家族 准組合員資格	判定月の月末時点で、 当組合の正組合員資格をお持ちであること または、当組合の正組合員の家族であること または、当組合の准組合員資格をお持ちであること	2
各種ローン	当組合所定のローン（住宅、リフォーム、マイカー、教育、カード、フリーローン等）を判定月の月末時点でご利用いただいていること	2
ＪＡカード利用	判定月またはその前月、前々月にＪＡカードのご利用代金または年会費をＪＡ口座からお支払いいただいていること	1
個人ネットバンク	判定月にＪＡ個人ネットバンクをご契約いただいていること	1
追加!! 通帳レス口座（＊2）	判定月の月末時点で通帳レス対象口座のうち、全口座が通帳レスとなっていること	1

ステージ別の優遇内容と優遇回数

優遇内容	ステージ１（０点～１点）	ステージ１（２点～３点）	ステージ１（４点以上）
ＪＡ個人ネットバンク振込手数料無料	－	１回	３回
コンビニ提携ＡＴＭ（＊3）入出金手数料無料	－	１回	３回

（＊１）ＪＡつがる弘前は本プログラムを取扱いしておりません。
（＊２）ＪＡ相馬村、ＪＡおいらせ、ＪＡ八戸は対象取引としておりません。
（＊３）コンビニ提携ＡＴＭ：ローソン銀行、イーネット、セブン銀行

自分のステージや優遇回数を確認し、毎月のお支払いやネットショッピング等の振込には「ＪＡ個人ネットバンク」を、現金の入出金には「コンビニ提携ＡＴＭ」を賢くお得にご利用を。

詳しくは、お近くのＪＡ窓口まで。

ＪＡネットローンホームページをリニューアルしました！

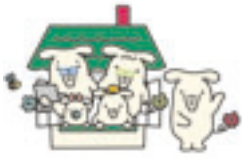
ＪＡバンクでは、2023年２月13日（月）より、「ＪＡネットローンホームページ」をリニューアルし、マイカーローンや教育ローンなどの商品ラインナップに「住宅ローン」を加えた。

ＪＡネットローンホームページは、来店不要で24時間365日、ネットで簡単にＪＡバンクローンの事前申し込みができるＪＡバンクのポータルサイト。

今回のリニューアルにより、ＪＡネットローンホームページから住宅ローンの金利チェックや事前申し込みが利用できるようになった。

マイホームの新築や購入、他金融機関等からの借換えをご検討されている方は、これを機会に是非ＪＡネットローンホームページにアクセスを。

また、ＪＡネットローンホームページでは、住宅ローンのほかにもお客様のニーズに応える多種多様なローンを取り扱っているので､こちらも是非ご確認を。



©よりぞう

行事（３／10～４／10）

農林中央金庫
３月
15日　ＪＡバンク青森運営協議会専門委員会（県農協会館・ウェブ会議）

農協電算センター
３月
28日　臨時株主総会（県農協会館）
28日　臨時取締役会（県農協会館）
28日　監査役協議会（県農協会館）

ベトナムへのりんご輸出

ＪＡ全農あおもりは、令和４年12月中旬からベトナムで令和４年産青森県産りんごの販売を行っている。「世界一」「陸奥」「金星」「有袋ふじ」「無袋ふじ」「ジョナゴールド」「王林」の７品種について、現地で３月までの販売を予定している。

４年産のベトナムへの輸出量は260㌧を計画している（前年実績比101%）。

現地の取扱店舗（約200店舗）では試食宣伝会などキャンペーンを展開し、クリスマスやテト（旧正月）の需要期に向け、売り場を構築している。また、ベトナムでは５年は猫年であることから、猫のイラストが描かれた専用パッケージを活用し、テト商戦での贈答用りんごとして、アピールを強化していく。

▲猫のイラストが描かれた専用パッケージ

販売先からは「日本のりんごは香りがよくて、美味しい」「陸奥や金星の人気が特に高い」などの声が寄せられている。

輸出８年目を迎え、さらなる輸出拡大に向けて、台湾・香港に次ぐ市場に成り得るよう、今後とも輸出を継続していくこととしている。

▲店頭での販売の様子

小学生に参加賞として「青天の霹靂」を配布

ＪＡ全農あおもりは、地域貢献活動の一環で「農業ふれあい教室」作文・かべ新聞コンクール（主催＝青森県女性組織協議会）に毎年後援している。令和４年度に開いた同コンクールでは新たに参加賞として青森県産米「青天の霹靂」の３合パックを贈った。県全体の参加者は県内４校の小学校から116人。

県産の特Ａ米を食べて寒い冬でも元気に過ごして欲しい、という願いを込め、子どもたちが持ち運びやすい３合パックを選定した。

１月19日、弘前市の相馬小学校で開かれた表彰式では、作文・低学年の部で優秀賞に輝いた同小学校３年の溝江萌さんが表彰を受けた。また同小学校の参加者23人が青天の霹靂を受け取った。受け取った生徒からは「嬉しい。早く食べたい」などの声があった。

同コンクールは、作る喜び、食べる喜びを感じることで農業に対する理解と地産地消への啓蒙を目的に毎年開いているもの。農作業体験を通して、感じたことなどを自由にまとめて応募する。平成18年度から始まり、今年で17回目。

県女性組織協議会の田澤真由美理事は「親が農家という生徒は多くいるが農作業は見ているようで見ていない。コンクールへの応募が、農作業の大変さに理解を深めるいい機会となっている」と話した。

全農あおもりは毎年、副賞として図書カードなどを贈っている。

▲表彰を受けた溝江さん㊥と青天の霹靂を手にする生徒ら

やさい生産販売計画策定推進会議

ＪＡ全農あおもりは１月24日、青森市の県農協会館で「令和５年度やさい生産販売計画策定推進会議」を開き、津軽地区ＪＡ担当者など26人が出席した。年間を通じて生産から販売までを円滑に行うために開いたもので、ながいも、にんにく、ごぼうなど計20品目の計画について協議。共販面積や販売単収、販売数量などを県全体およびＪＡごとに定めた。

県全体の系統販売計画数量は、12万4800㌧（令和４年産見込み数量比33%増）。内訳は、ながいも２万9600㌧（同41%増）、にんにく5300㌧（同31%増）など。昨年８月の大雨の影響で品質低下が多く見られたことから、水害軽減対策などを重点事項に掲げ、単収の底上げを図っていくこととした。

全農あおもりやさい部坂本浩部長は「生産面や販売面の対策を基盤としながら、農産物の価値観向上に係る理解醸成や消費の喚起を促し、計画達成に向けて努めていきたい」と協力を求めた。

31日には、県南地区のＪＡを対象に同会議を開いた。

▲販売計画を協議する担当者ら

やすらぎホール鰺ヶ沢「人形供養祭」

ＪＡ全農あおもりは１月29日、鰺ケ沢町のやすらぎホール鰺ヶ沢で人形供養祭を開いた。

これは、令和２年12月のオープンから２年が経過し、順調に稼働できていることへの地域組合員に対する感謝と、ホールのさらなる浸透・施設紹介を目的に企画したもの。

当日はあいにくの天気ながら、午前９時から正午まで組合員ら37組がホールに来場し、供養してもらいたい人形約300体がホールに集まった。

集まった人形は同日正午から同町來生寺の園村義誠住職が読経し供養した。この模様は、コロナ禍を考慮しインターネットでもライブ配信された。

昨年11月には黒石市にあるやすらぎホール黒石１周年記念催事としても同様の人形供養祭を開いている。全農あおもりでは引続き、ホールの認知促進、ＪＡ葬祭事業の拡大に努めていく。

▲住職による供養が行われた

毎月放送！「Fresh Vegetable」

１月27日放送

ＪＡ十和田おいらせ「タラの芽」

放送内容はこちら

２月10日放送

ＪＡ十和田おいらせ「ながいも」

放送内容はこちら

今後の放送スケジュール　夕方５時56分から！（放送時間が１時間早まりました）

・３月10日　総集編

共済事業担当常勤理事会議の開催

ＪＡ共済連青森は、２月１日にＪＡ共済連豊洲センター（東京都）において「共済事業担当常勤理事会議」を開催した。

開会にあたり、沼田本部長は会議への出席と共済事業をはじめＪＡ事業全般に尽力していただいていることについて感謝の言葉を述べ、「本会議では、今年度の目標達成に向けた取り組みについて改めて確認していただきたいことと、青森県の業務計画書について普及以外の部分を説明させていただきます。併せて共済事業向けの総合的な監督指針改正の説明と令和５年度の地域貢献活動について説明させていただきます」と挨拶した。

次に全共連高橋常務より挨拶の言葉をいただき、全国本部東北・北海道地区担当伊藤部長より全国普及推進状況等の情勢報告が行われた。

会議では令和４年度目標達成に向けた今後の取組み、令和５年度事業計画書（案）、令和５年度業務計画書、令和５年度地域・農業活性化の取組みについて説明し、積極的な質疑応答が行われた。

▲共済事業担当常勤理事会議の様子

拡大共済担当部課長会議の開催

ＪＡ共済連青森は、２月10日に県農協会館において「拡大共済担当部課長会議」を開催した。

開会にあたり、沼田本部長から「年度最後の会議となるので、まず今年度の目標達成に向けた取組みを改めて確認させていただきたいと思います。令和５年度の事業計画書（案）と全国統一の事業計画書の内容について、また、事業計画書と絡めた共済事業にかかる監督指針の改正についても概要をご案内させていただきます」と開会の挨拶があり、全国本部東北・北海道地区担当の伊藤部長より全国普及推進状況等の情勢報告が行われた。

▲挨拶をする沼田本部長

会議では２月１日に行われた共済事業担当常勤理事会議の内容に加えて、令和４年度共栄火災商品の目標達成に向けた取組みと、令和５年度共栄火災の取組みについて協議が行われた。

仕組改訂・事務改善事項研修会の開催

ＪＡ共済連青森は、２月14、21日にオンラインによる「仕組改訂・事務改善事項研修会」を開催した。

ＬＡ管理者、共済担当管理者、ＬＡ、共済担当者を対象に、令和５年度の仕組改訂および事務手続き・帳票様式等の設定・変更にかかる知識の習得を目的として開催された。

研修会では、令和５年度４月から新設される定期生命共済（逓減期間設定型）の新設について説明が行われた。

新設された背景には、ライフステージの変化に伴う万一保障のニーズの変化、可処分所得の減少等を背景とした低廉な共済掛金に対するニーズの高まりがある。これらを踏まえ、低廉な共済掛金でライフステージの変化に応じた万一保障を確保できる「定期生命共済（逓減期間設定型）」を新設した。

特徴としては①「ライフステージの変化に応じて保障金額が逓減する。」②「逓減が開始する時期を任意に設定できるため、ニーズに応じた自在性の高い保障設計が可能。」③「低廉な共済掛金で加入できるため、必要に応じた保障を確保できる。」などがあげられる。

オンライン開催であったが、参加者は熱心に受講している様子が伝わってきた。

行事（３／10～４／10）

４月

４～６日	共済基礎知識研修会／基礎知識コース（県農協会館）
５日	交通安全ラッピングバス運行式（青森市営バス）
７日	共済基礎知識研修会／ＬＡ推進活動コース（県農協会館）
10～13日	新任ＬＡ研修会１（県農協会館）
10日	文化支援活動クリアファイル寄贈式（青森県庁）

東北農政局通信
あおもり

連絡先
東北農政局青森県拠点
地方参事官室
TEL：017-775-2151
MAFF
農林水産省

令和５年産に向けた水田農業の取組方針のポイント

ポイント１

主食用米の需要は毎年10万トン程度減少しています。
今年も主食用米から飼料用米や輸出用米、**高い収益性・定着性**がある麦・大豆、野菜などへの転換を検討しましょう。

ポイント２

飼料用米に取り組む方々は、**多収品種**での取組をお願いします。

☆５年産以降の飼料用米（一般品種）への支援

○**令和５年産の支援内容は、多収品種・一般品種ともに同水準としますが、**令和６年産以降は、一般品種について、支援水準を毎年段階的に引き下げることとします。

	令和５年産	令和６年産	令和７年産	令和８年産
一般品種	・数量に応じて、 5.5～10.5万円/10a (標準単価 8.0万円/10a) (**従来と同様**)	・数量に応じて、 **5.5～9.5**万円/10a (標準単価 **7.5**万円/10a) or ・単価**7.5**万円/10a	・数量に応じて、 **5.5～8.5**万円/10a (標準単価 **7.0**万円/10a) or ・単価**7.0**万円/10a	・数量に応じて、 **5.5～7.5**万円/10a (標準単価 **6.5**万円/10a) or ・単価**6.5**万円/10a

※多収品種については数量に応じて5.5～10.5万円/10a(**従来通りの単価**)

ポイント3

転換作物が定着し、水田機能が低下しているほ場は、**畑地化**を検討しましょう。
一方、これからも稲作を併用した栽培をする場合は、連作障害等を回避するために**ブロックローテーション**を活用しましょう。

☆畑地化支援・定着促進支援

対象作物	畑地化支援（注２）	定着促進支援（注３）
高収益作物 **（野菜、果樹、花き等）**	**17.5**万円/10a	・2.0(3.0※１)万円/10a×５年間 または ・10.0(15.0※１)万円/10a（一括） ※１　加工・業務用野菜等の場合
畑作物 **（麦、大豆、飼料作物（牧草等）、子実用とうもろこし、そば等）**	**14.0**万円/10a	・2.0万円/10a×５年間 または ・10.0万円/10a（一括）

注１　**畑地化は、交付対象水田から除外する取組を指す。（地目の変更を求めるものではない。）**
注２　令和５年度における取組が対象。
注３　令和４年度または５年度において、**畑地化した面積全体が対象。**

【田畑輪換の例（４年４作）】

産地ごとに課題を振り返り、引き続き需要に応じた生産・販売への取組を進めましょう。

水田農業の未来を考える動画コンテンツの配信

Youtube（MAFFチャンネル）に公開中！ぜひご視聴ください！

組織農政通信

農業者年金制度と加入推進

農業者年金の現状

農業者年金事業にとって、加入推進は大事なことであるが、目的はあくまでも農業者の方々に老後生活の支えとなる年金をしっかりと支給することである。

農業者年金は、旧年金制度・新年金制度合わせて約30万人の農業者に年間770億円の年金を支給している（令和２年度）。

受給者にこれだけの年金を支給している現状では、農業者にとっては、なくてはならない制度になっている。

平成14年度からスタートした新制度の受給者も５万人を超えて、年金額も50億円と順調に推移している。

新制度の加入者累計は、令和４年７月に13万人を達成した。

この結果、新規加入した被保険者から預った保険料の資産運用額は、毎年運用することによって、順調に伸びて令和３年度末で2,650億円と非常に大きな金額になっている。

コロナ禍での加入促進の取り組み

平成30年度スタートした第４期中期計画目標では、20～39歳の若い農業者と女性農業者の加入についての目標が設定され、若い農業者で年間2,400人、女性農業者で年間1,000人、全体で年間3,800人で、今年度が30年度からスタートした中期計画の最終年度になっている。

ただ、実態としては本県の状況、全国の状況からいって、大変厳しい状況である。

全国、本県とも、令和２年度に引続き、令和３年度も厳しい状況で、全国では全体で2,463人（昨年度比▲174人）、若い農業者で1,434人（昨年度比▲146人）、女性農業者で842人（昨年度比▲89人）と前年度実績を下回っている。

本県でも、令和３年度は、全体で70人（昨年度比▲19人）、若い農業者で36人（昨年度比▲９人）、女性農業者で26人（昨年度比▲２人）と前年度実績を下回っている。（表１）

（表１）新規加入者数の状況

区分		令和３年度	令和２年度	増減
全体	全国	2,463人	2,637人	▲174人
	青森県	70人	89人	▲19人
若い農業者	全国	1,434人	1,580人	▲146人
	青森県	36人	45人	▲９人
女性農業者	全国	842人	931人	▲89人
	青森県	26人	28人	▲２人

今年度は、１月末の全体の実績が全国で前年度を155人、本県では11人それぞれ下回っている。

目標自体が高く設定されており、せめて何とか前年度の実績を上回りたいが、毎年加入実績の積み上る１－３月の時期に新型コロナウイルスの感染拡大の波が何回もピークをむかえ、加入推進のための個別訪

問が思うようにならない状況となっている。
　やはり、農業者年金制度が農家にとっては、なくてはならない制度になってきており、この制度を盛り上げていかなければならないため、残された期間、一歩でも二歩でも目標に近づいていきたい。

人生100年時代を支える農業者年金

　現在の平均寿命は、男性81歳、女性87歳だが、死亡確率の高い幼年期を過ぎると、平均余命はかなり伸びる。
　65歳の平均余命は、65歳過ぎてからあと何年生きるかということを換算したもので、これが平均余命という考え方である。女性では、平成２年生まれの方は、平均余命は90歳まで生きる人が69%、100歳が20%になっている。（表２）
　女性はもう人生100年時代に突入している。
　女性こそ終身年金である農業者年金を、大事にしないといけない時代になってきている。

（表２）各世代ごと、どのくらい長生きするか？

	年齢	生存率	年齢	生存率
昭和25年生まれ	男　90歳	35%	男　100歳	４%
	女　90歳	60%	女　100歳	14%
昭和45年生まれ	男　90歳	41%	男　100歳	６%
	女　90歳	67%	女　100歳	19%
平成２年生まれ	男　90歳	44%	男　100歳	６%
	女　90歳	69%	女　100歳	20%

　令和４年７月に達成した加入者累計が13万人を達成した大きな原動力の１つが女性の加入である。
　被保険者数の割合は、平成25年度に17.6%だったものが、令和３年度では、24.3%と７%増えている。ただ新規加入者数の割合を見ると、平成25年度に33.2%だったものが、令和３年度は、34.2%とやや頭打ちとなっている。（表３）

（表３）13万人運動における女性力の貢献

	平成25年度	令和３年度
被保険者数の割合	17.6%	24.3%
新規加入者数の割合	33.2%	34.2%
受給権者数の割合	8.2%	11.2%

　もっと大事な問題としてあるのは、受給権者数の割合である。制度の恩恵にあずかっている人数が、どれだけいるかの受給権者数の割合は、平成25年度に女性は8.2%、増えてはいるが令和３年度では、11.2%とまだ全体の１割強にしか届いていない。
　40年夫婦２人で加入し、12～13万円を受給するのが、理想的ではあるが、いくらかでも受給していれば、それは助けになる。
　やはり、平均余命からいって、後に残されるのは女性の方が可能性が高いので、周りに農業者年金に入っていない女性の方がいたら、加入をすすめていただきたい。

（中央会　農業対策部）

実践　農業者支援

北海道・東北ブロック代表　ＪＡつがる弘前の長内隆さんが事例発表
～令和４年度第７回ＪＡ営農指導実践全国大会～

ＪＡ全中主催の令和４年度第７回ＪＡ営農指導実践全国大会が２月16日、東京都港区の品川インターシティホールで開かれ、北海道・東北ブロック代表でＪＡつがる弘前の長内隆さんが「りんご一大産地の将来を担う請負剪定隊の結成～産地存続の戦い～」と題して事例発表を行った。高齢化による農業労働力不足の解消のため請負剪定隊を結成し、さらなる課題解決に向け生産現場の実態把握に努めるなど、請負剪定隊による成果や営農指導員としての使命を述べた。

大会は、特に優れた産地振興や技術普及等に取組んだ営農指導業務を担当する職員を表彰し、その取組みを全国で広く共有することによって、営農指導の品質向上と営農指導員ネットワークの構築をはかることを目的として開かれ、全国８ブロックの代表がそれぞれ事例発表を行っている。

優秀賞に選ばれた長内さんは、表彰後のスピーチで、農家組合員とＪＡ関係者にこれまでの取組みへの感謝を述べた。

▲請負剪定隊での長内さん（スライド前列中央）

長内さんの取組みの経緯や成果の概要は、次のとおりである。

ＪＡつがる弘前管内では、りんごに関連した産業が雇用を生み、地域活性化に繋がっている。しかし、高齢化等による農業労働力不足や離農が顕著に表れており、生産力低下や活力ある産地の維持に向けた対策は、ＪＡだけでなく地域全体の課題となっている。

このような中、長内さんは平成19年に営農指導員となり、ＪＡに農業労働力不足の相談が多いことから、生産現場がひっ迫していることに危機感を持ち、先輩営農指導員とともにサポートが急務とされる剪定を請負う組織を結成している。しかし、多くの生産者の要望に応えるため年々面積は増加し、質よりも量をこなすことで精一杯となり、切り方にバラつきが生じるなど多くの課題を残す結果となる。

▲事例発表する長内さん

平成29年度に配属された北地区では、この課題を解決するため、独自にアンケート調査を実施し生産現場の把握に努めた。その結果、請負地域を絞込むことで急激に増加する剪定面積を抑制するとともに営農指導員間で伝承されているりんごの生理・生態に基づく剪定理論を中心とした指導環境を整備し、量よりも質を重視した剪定隊の結成と活動を達成した。

▲優秀賞を受賞した長内さん

事例発表の結びには、「営農指導員の使命は、りんごを生産する産地や地域を守り、存続していくこと」、「剪定技術の継承は、100年、200年先も色あせないもの」、「われわれ、営農指導員は、常に生産現場に目を向け、将来の方向性を共有することで、りんご一大産地を守っていく」と力強く語った。

（中央会　農業対策部）

経営の窓口

女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画について

1．はじめに

少子高齢化によって労働人口が減る日本において、働く女性の現状は、諸外国に比べてまだまだ女性の力が十分に発揮できているとはいえない状況にある。そのような現状において優秀な人材を採用したり、採用した人材に長く職場で働いてもらうためには、働きやすい職場づくりが欠かせないものとなっている。

2．女性活躍推進法に基づく一般事業主行動計画

常時雇用する労働者数が101人以上の事業主は、女性活躍に関する状況把握、課題分析を行い、行動計画の策定や具体的な取組内容を報告することが義務づけられている。行動計画の策定の流れを簡潔に説明すると以下のとおり。

【STEP 1】女性の活躍に関する状況を把握し、課題を分析
【STEP 2】STEP 1を踏まえた行動計画の策定、職場内の周知、外部へ公表
【STEP 3】一般事業主行動計画を策定した旨の届出
【STEP 4】行動計画の実施、効果の測定

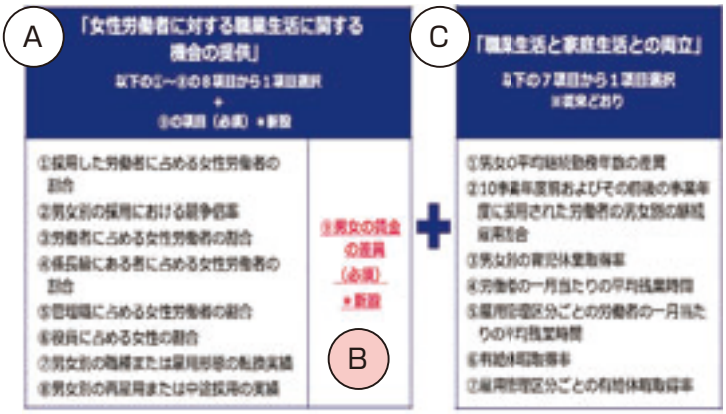
3．女性活躍に関する情報公表項目および「男女の賃金の差異」の新設

本県ＪＡにおいては、既に行動計画の策定・情報公表を行っているが、制度改正により情報公表項目に「男女の賃金の差異」が新設された。事業年度の開始後概ね３か月以内に公表する必要がある※のでご留意いただきたい。

（※労働者数が301人以上の事業主）

（１）労働者数が301人以上の事業主は
① Ａ：８項目から１項目
② Ｂ：男女の賃金の差異※新設
③ Ｃ：７項目から１項目
の計３項目を公表

（２）労働者数が101人以上
300人以下の事業主は
Ａ、Ｂ、Ｃの計16項目から
１項目以上を選択し公表



4．さいごに

一般事業主行動計画の策定・届出を行った事業主のうち、女性の活躍推進に関する状況が優良である事業主は、厚生労働大臣の認定を受けることができる。認定を受けた際には認定マーク「えるぼし」または「プラチナえるぼし」を商品や広告に付すことができ、女性活躍推進組合であることをＰＲすることができる。また、そのことにより優秀な人材の確保や組合イメージの向上等につながることが期待できる。

また、厚生労働省は積極的に女性活躍推進に取組んでいる企業の事例をＨＰで公表しているので、取組む際の参考にしていただきたい。

「女性の活躍推進や両立支援に積極的に取り組む企業の事例集」
（URL:https://positive-ryouritsu.mhlw.go.jp/practice/search）

（中央会　経営対策部）

食への支援で心ふれあう地域づくりを目指す

ＪＡ相馬村は２月７日、直売所『林檎の森』にてフードボックス設置式を行った。2020年より弘前市の一般社団法人みらいねっと弘前がはじめたフードバンク事業に賛同し、同ＪＡ理事で女性部長の田澤真由美さんが、同法人の鹿内葵代表理事よりフードボックスを受け取った。

集める食品は、①賞味期限が１カ月以上あるもの②未開封のもの③生鮮食品以外のもの④包装や外装が破損していないもので、回収後は市内の子ども食堂や社会福祉施設に寄付をする。直売所入り口に設置すると田澤理事は早速、令和４年産の青天の霹靂10kgを寄付し「子どもたちや、食事を必要としている方に食材を届けることで、食と農に取組むＪＡおよび女性部として地域貢献をしていきたい」と意気込んだ。地域で野菜が多くとれる時期には、生鮮食品の回収日を設けるなど計画していく予定だ。

鹿内代表理事（右）からフードボックスを受け取り、
地域貢献への決意を見せる田澤理事

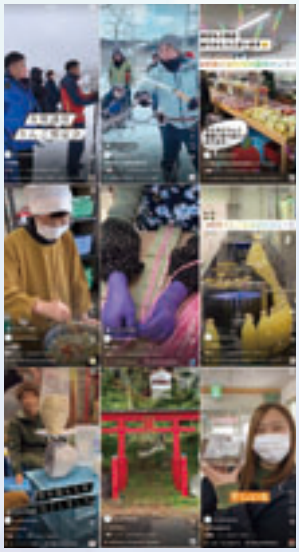
迅速な情報発信で共感アップと生産者サポートを

ＪＡ相馬村は令和４年10月よりインスタグラムを開設し、管内のみならず広域のお客様へ向けた情報発信を行っている。季節に応じたリンゴ作業はもちろん、女性部や青年部活動、直売所の売り場やジュース加工所の様子などＪＡに直接関わる内容に加え、園地や郷土食の加工風景、管内の祭りなど地域の様子も解説を交えた動画や写真で伝える。

一方、３年前から取り組んでいるテレグラムには、生産者向けの情報を掲載。リンゴ選果基準の見本写真や、品種ごとの入庫期間、防災無線の放送内容を文字で伝えるなど、欲しい情報を分かりやすく、農作業中でもスマホで確認できるよう発信している。

同ＪＡの大場勉組合長は「分かりやすく情報をお届けすることで、お客様より共感や興味を持っていただくと同時に、迅速な情報発信で、品質と収量を維持できるようサポートしていきたい」と話し、引き続きＳＮＳでの情報発信について決意を新たにした。

テレグラムで生産者
向け情報を発信



インスタグラムには
直売所や地域情報も

JA_SOUMAMURA

フォロー
お願いします！

輝き

ＪＡ全農あおもり
りんご部　りんご課
織笠（おりかさ）　光平（こうへい）　さん

●プロフィール
2021年４月から勤務　青森県三沢市出身　24歳

働くきっかけは？

親族に農業関係に勤める人が多く、自分も青森の農産物を発展させていくことに少しでも貢献できればと思い、志望しました。

業務内容を教えて下さい。

一般果樹および県南地域の推進業務をしております。

働いた感想は？

連絡不足や確認不足によって、業務上のミスにつながることがあったことから、人と人とのコミュニケーションが業務をこなしていくうえでとても大切な要素だと感じました。これからの業務ではコミュニケーションを通じてミスが出ないよう気をつけていきたいと思います。

仕事をする上で、日頃心がけていることは？

最近はタスク管理を特に心がけております。自分がやるべき業務を把握して、計画的に業務を行うよう心がけています。

特技・趣味は？

外の風景を見ながら散歩するのが趣味です。最近は雪が多く外も寒いので、散歩にはあまり出かけず、読書をしております。

あなたが自慢できることは？

肩が柔らかいです。孫の手いらずです。

将来の夢は？

宝くじで一等当てます。

冬美活　趣味の発見、癒しに

すすめ！SDGs

好きな模様を選ぶ参加者

ＪＡ八戸では仲間づくりに力を入れており、「冬美活」という講座を毎年12～３月に開いている。管内在住の女性を対象に、衣食住・健康・福祉・環境・文化・美容などの教養を高め、新しいことへのチャレンジや趣味の発見、癒やしの時間づくりなどを目的にしている。

同活動は、持続可能な開発目標（SDGs）の目標４「質の高い教育をみんなに」と11「住み続けられるまちづくりを」につながる。

今年は「腸もみセラピー」や「ポーセラーツ」を開催。講座内容は女性特有の体調の悩み相談や「こんなことをやってみたい」という要望から毎年内容設定している。講座を通して友人となった参加者もいて、その後のイベントにも参加している。

参加者は「毎年参加しているが、やってみたかった内容が詰まっているので、楽しく参加している」と話す。

誉

庭はわくわくの宝庫

ジャムの原料となるハスカップを収穫した清野さん

五所川原市に住む清野章子さんは、勤める傍ら、ＪＡごしょつがる農産物直売所「まるっと新鮮館」に手作りのジャムや菓子などを出荷する。勤めは昼からで、収穫や加工作業は午前中に行う。清野さんが出荷するアップルパイや、地域住民に愛される「しとぎ餅」が人気で多くの注文が入る。

「とにかく、実をつける植物が好き」と話す清野さんが作る加工品は自分の庭で育てたさまざまな食材を使用している。

清野さんの家の庭は、多様な種類の果実や木の実、花々にあふれている。中でも、菓子製造のきっかけになったのはハスカップ。ハスカップと砂糖だけで作るジャムは爽やかな酸味があり、素材の味が生きる。

清野さんはいろいろなことに興味を持ち、耳にしたことは調べて、試すことを楽しんでいる。扱い方、特徴や実の効能など、庭に増えていった植物の分だけ、知識が深まっていく。

「今は栗を加工するのが楽しみ。それから、桃のパイも作りたい、生地も簡単に作れるようになったから」次々と湧き上がる好奇心で、試行錯誤を続ける。庭はわくわくの宝庫。今度はどんなものを作ろうか。清野さんの挑戦は続く。

後編記集

旧暦３月を弥生（やよい）と呼び、現在では新暦３月の別名としても用いる。ヨーロッパ諸言語での呼び名である mars, marzo, March などはローマ神話のマルス（Mars）の月を意味することもある。Martius から取ったもの。

３月14日はホワイトデー、お返しのお菓子には意味があります。「クッキー」は「よい友達」（乾いてサクサクし、あっさりした関係を望む）、「マシュマロ」は「嫌い」（すぐに溶けてしまうから薄い関係）、「飴」は「好き」（固くてなかなか割れない・甘さを長い間楽しめるから長く甘い関係を望む）、「マカロン」は「特別な人」（高級お菓子であり、特別な人にあげるお菓子なので）になるそうです！

以上、３月についての豆知識でした。

それでは皆様、「SEE YOU ON APRIL!」

（一）

ホームページアドレス

■ＪＡ青森中央会　https://www.ja-aomori.or.jp/chuoukai/
イベントの様子、歳時記、産直・ＪＡ情報などをご覧いただけます。

■ＪＡバンク青森　https://aomori.jabank.org/
商品・サービスのご案内のほか、マネーシュミレーションや全国のＪＡバンクへのリンク等をご覧いただけます。

■ＪＡ全農あおもり　https://www.zennoh.or.jp/am/
生産量日本一のりんご・にんにく・ごぼうをはじめとした農畜産物情報や活動状況、中古農機情報を紹介しております。

■ＪＡ共済連青森　https://www.jakyosai-aomori.jp
ＪＡ共済のご案内のほか、地域貢献活動の取組みを紹介しております。